

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【 I、V 】
2 実施対象者	札幌市立東園小学校 【日時】平成29年12月11日（月） 【対象】4年生 児童72名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 社会科、体育、総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	ウィンタースポーツへの興味・関心を喚起し、オリンピック競技への理解を深めるとともに、冬期間における体力向上の取組のきっかけづくりとする。
5 取組内容	・社会「雪とくらす」体育「スキー」、総合的な学習の時間「健康教育」「世界と友達になろう」の学習に生かすための事前学習を行った。（総合的な学習の時間1/3） ・札幌オリンピックミュージアムにおいて現地学習を行い、雪を生かした冬季スポーツについて体験を通して学ぶ。（社会1、総合的な学習の時間2/3） ・現地学習で学んだことをまとめ、今後の学習に見通しをもつ。（総合的な学習の時間3/3）    

6 主な成果	・オリンピックのアルペンスキーに出場した川端絵美さんに、ストックやヘルメット、靴、ユニフォームなど、競技で使う用具について詳しくお話をいただき、子どもたちは、スキーについての興味関心を深めていた。 - また、スキーの滑り方のこつも教えていただき、スキー学習への意欲が高まった。 ・川端さんのお話から、対話をすること、みんなで協力して一つの物をつくることが大切であることも学び、学校生活と結び付けて考えるよい機会にもなった。 ・大倉山ジャンプ競技場を見学したり、冬季オリンピック競技を体感したりすることで、ウィンタースポーツの素晴らしさや楽しさを味わうことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	札幌オリンピックミュージアムでの活動時間が不十分であった。帰校後、子どもたちに感想を聞いてみると、「競技体験を1つしかできなかった。」「もっと聞きたいことがあった」などの声が多く聞かれた。 館内での見学時間が短く、オリンピック競技を十分に体感することができなかった。70人程度が一斉に見学をする場合、最低30分～40分は必要だと考える。
9来年度以降 の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。